

ラインセンサスの確認種数について

2) 代表的な環境と動物の相関関係

鳥類ラインセンサス確認種数(個体数)は表4-13-1に、鳥類ラインセンサス調査ルート図は図4-13-3に示すとおりである。

動物調査のうち、定量調査である鳥類のラインセンサス調査をもとに代表的な環境と動物の相関関係を整理した。右側に河川敷や草地、左側に市街地があるルート1は、最も確認種数が多い40種となった。個体数はコガモ、オナガ、ヒヨドリ、特にムクドリやスズメが多く確認された。両側に農耕地や草地があるルート2は、27種が確認された。個体数はムクドリ、スズメ、アトリが特に多く確認された。農耕地や草地などを含む対象事業実施区域を通過するルート3は、最も確認種数が少ない23種となった。個体数はスズメ、ムクドリ、マヒワが特に多く確認された。右側に工業用地、左側に河川敷や草地があるルート4は、29種が確認された。個体数はスズメ、アトリ、カルガモが特に多く確認された。

表 4-13-1 鳥類ラインセンサス確認種数(個体数)

ルートNo.	年間	100m当たりの確認種数(個体数)				
		秋季	冬季	春季	繁殖期	夏季
ルート1	40種 (4,954)	17種 (54)	22種 (4,198 ^{※1})	22種 (87)	15種 (114)	14種 (501 ^{※2})
ルート2	27種 (308)	14種 (69)	14種 (96)	14種 (63)	11種 (38)	8種 (42)
ルート3	23種 (1,378)	9種 (27)	12種 (1,118 ^{※3})	11種 (64)	12種 (42)	9種 (127)
ルート4	29種 (223)	8種 (37)	12種 (27)	11種 (36)	13種 (94)	11種 (29)

- 備考) ※1 群れで飛翔したムクドリの個体数おおよそ4000を含む。
 ※2 群れで飛翔したスズメの個体数おおよそ400を含む。
 ※3 群れで飛翔したムクドリの個体数おおよそ1000を含む。

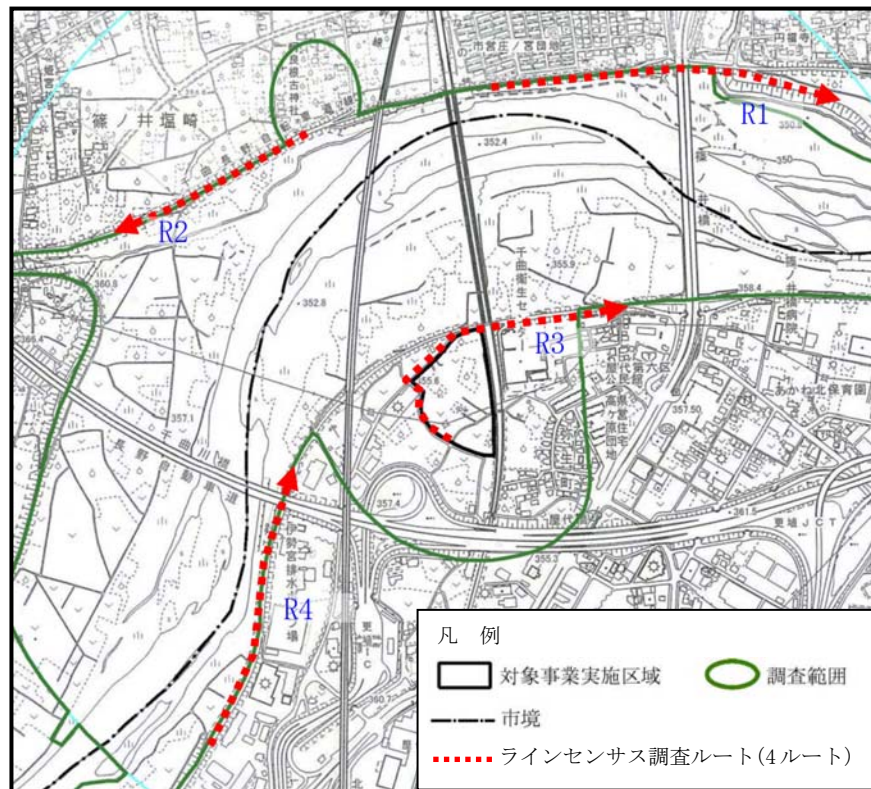


図 4-13-3 鳥類ラインセンサス調査ルート図